

# 文化庁

43.9

〈月報〉

昭和43年9月15日 発行

編集 文化庁長官官房庶務課  
発行

東京都千代田区霞が関3-2-2  
電話 代表 (581) 4211  
郵便番号 100

—〈第1号〉—

(題字=今日出海 文化庁長官)

あいさつ

今日 日出る

これまでも、わたくしにとっては、わたくしの生活のすべてが文化のことといっぱいでしたが、このたび文化行政の仕事を通じて責任者となり、実行もできる立場になりましたので、毎日、寝てもさめても、また電車や自動車の中でも文化のことについて真剣に考えています。

庁員のかたや関係の各機関、団体のかたがみなさんと文化のことを考えるようにしたいものだと考えています。

文化庁は、一省一局削減というのを直接の契機としてできたものですが、文

部省では、この機会を積極的に生かして、伝統文化財の保護に関する行政と芸術文化の普及振興に関する行政とを一体的に効果的にすすめるため、文化庁を設置することにしたわけです。

わたくしは、このような文化庁設置の趣旨にかんがみ、文化行政の推進のために大いに努力したいと思っています。

これまでは別々の行政組織の中にあつた国立の博物館、文化財研究所と、美術館、芸術院、国語研究所等が、それぞれの特色を発揮しながら相互に連携協力を密接にして、文化庁設置の趣旨にあうよう

に運営されることを希望しています。

わたくしはかねてから、中央と地方との文化格差の是正こそ緊要であり、それはわたくしの任務の第一と考えています。このため、

地方における芸術文化の振興には特に力を入れ、文化のすそ野を広げていきたいと存じます。地方文化の振興といってもそれは単に中央の文化を地方に移すということではなく、地方地方に特色のある固有の文化を育成することであると考えます。

最近、地方の美術館や文化会館などが整備されてきて、特色ある活動を展開されていることは心強いことです。国立の博物館、美術館、研究所等もこれらの地方の芸術文化活動に大いに協力すべきだと考えています。

わたくしは、いまこそみんなで芸術や文化の振興を真剣に考え動き出さねばならぬ時期と考えています。

そのため、わたくしがこれまで持ちつづけてきたもの、考えてきたものをさらに勉強し、みなさんと話し合い、いっしょに仕事をして、わが国の文化をよりよい方向へ進めていきたいと思っています。

みなさんも文化についてよくお考えくださるようお願いします。

このたび、文化庁月報第一号が発行されることになりました。これは、文化庁関係の仕事のあらましをできるだけ多くのかたがたに知っていただき、文化財の保護や芸術文化振興にいったその力となつていただこうという趣旨のものです。みなさんが文化についてお考えいただくとき、なんらかの御参考になれば存じます。